

見えてきた姫路城復旧計画

◆姫路市職員の描いた三ノ丸復興計画②◆

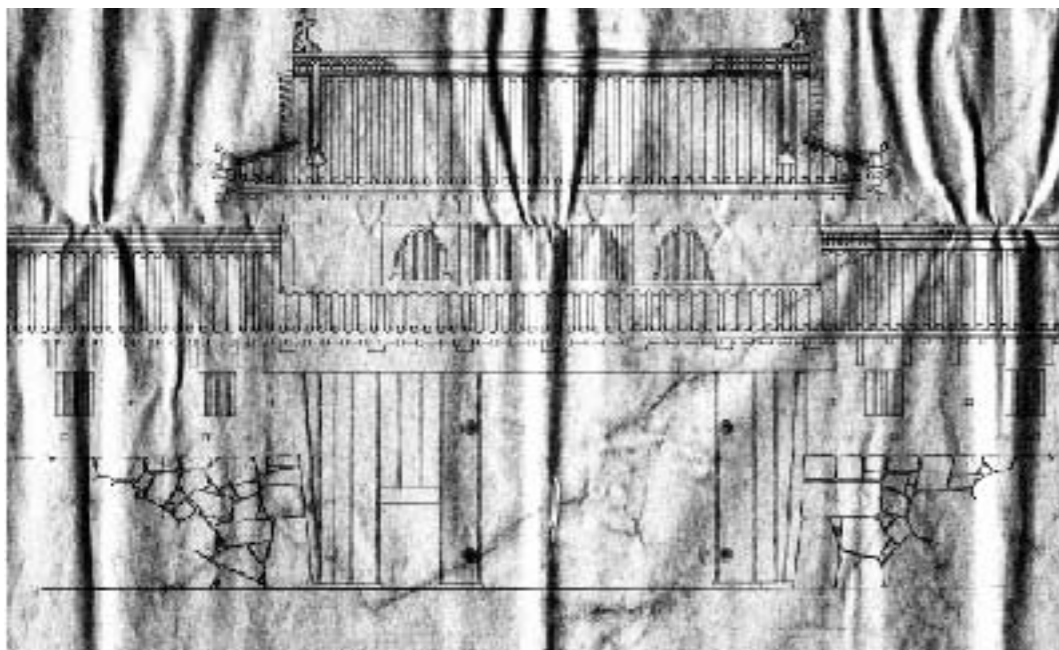
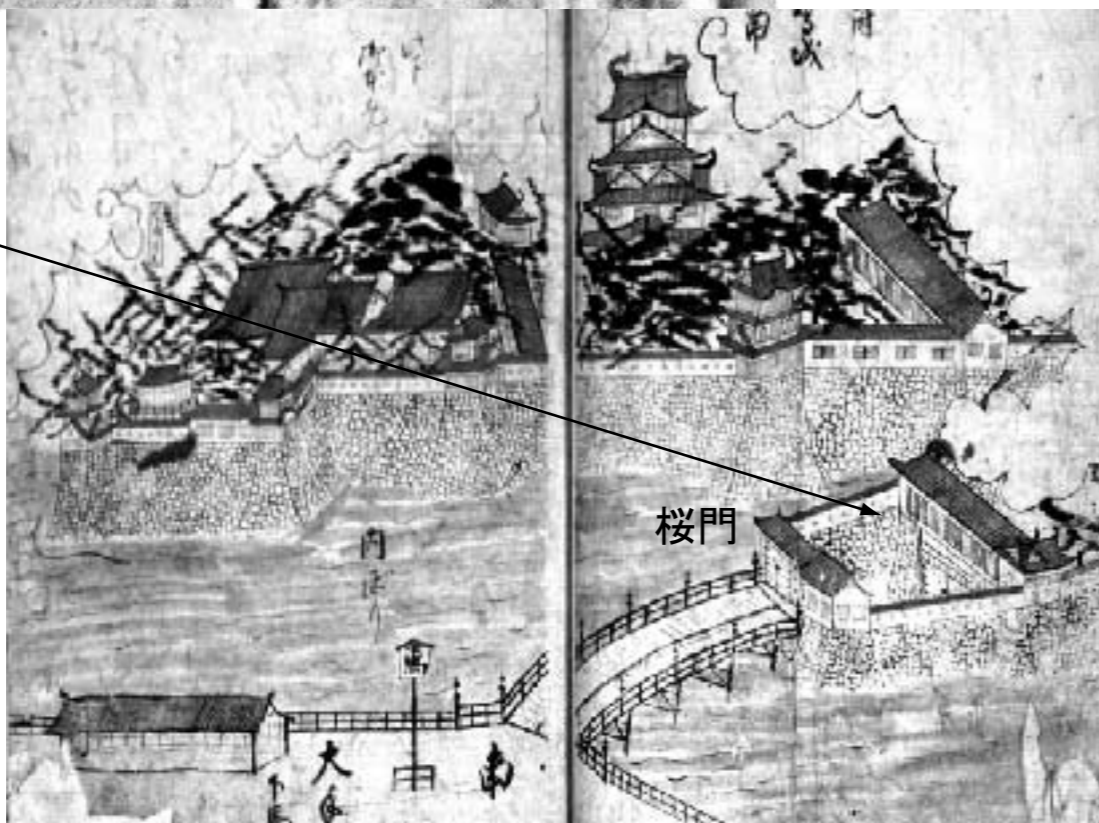


図1：「桜門設計図」のうちの1枚。青焼陰画を色調反転。華頭窓、入母屋など、外観は菱の門に酷似。

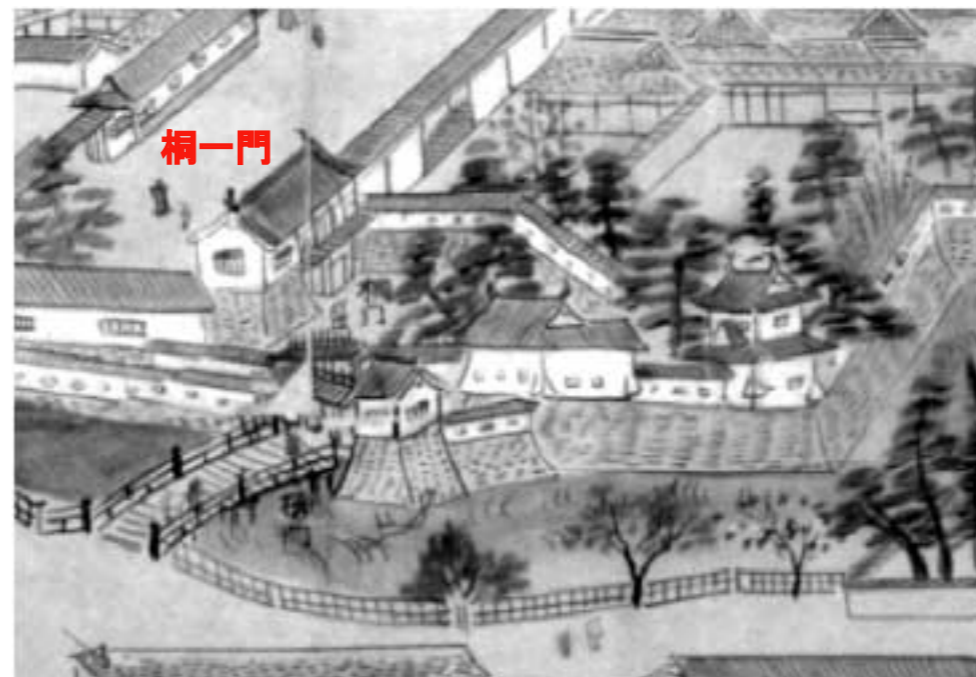
図2：「大工幾蔵図」に描かれた大手



桐二門

桜門と桐二門の位置に注意！

この復旧計画では本来桐二門のあった位置に「桜門」建設が計画された。そのまま現在の「桜門」が建てられた。



桐一門

図3：「姫路城図屏風」部分
桐一門は切妻屋根をもつ櫓門。桐二門と桜門は棟門のように描かれている。桐二門の右にある櫓はL字状に折れた平櫓であったことがわかる。

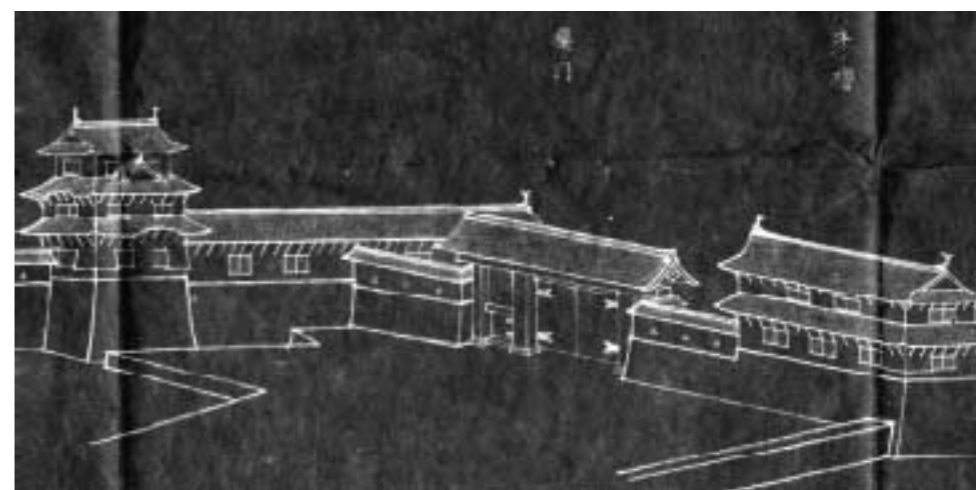


図4：本ニュースNo.11の図1と比べると、「桜門」が全く異なっている。こちらの方が本来の姿に近い。しかし「桜門」の右にある櫓は二重櫓になっていて、図3とは異なる。

この資料では、「桜門」の復興で少なくとも2種類の計画があったことが窺われる。まず櫓門として計画されたい。見取図まで含まれており、かなりまじめに考えられたようである。しかし復興にあたって参考とすべき良質な史料がなかったため、大手門に相応しい現存建物として菱の門を手本とした設計となったのであろう。図1はそのことを端的に示している。

そして図4のように、棟門としての計画である。「酒井家所蔵之城郭図写二摺ル」と記された「姫路城々址復旧計画平面図」が含まれていることから、江戸時代の絵図を参考にした計画のようである。姫路城絵図を調べていくと、戦前の姫路市職員が模写した写本がいくつか存在することに気づく。こうした絵図は、昭和10年代の復興計画に利用するために模写されたことも考えられる。ちなみに「酒井家所蔵之城郭図写二摺ル」とされた写本は、城郭研究室が所蔵する酒井家蔵図の可能性が極めて高い。この図は大正15年8月、姫路市土木課によって模写された絵図である。設計を担当した職員は、こうした史料に忠実に建物を設計したものとみられる。

姫路城跡は大正14年に歩兵第十連隊が岡山に転出すると、姫路城勝地保存期成同盟が結成され（顧問に酒井伯爵）、姫山公園の拡張と城跡の保存を促進しようとする動きが現われた。土木課による模写も城跡の保存事業と無関係ではあるまい。昭和10年代の三ノ丸復旧計画は、この動きの延長線上にあったといえるのかもしれない。



"Shiro Fumi" No.12 The News of Himeji Center for Research into Castles and Fortifications.

「城踏」の様子